

## 臨床細胞診断学

《担当者名》 丸川活司 近藤 啓

## 【概要】

細胞診断学は究極の病理形態学であり、目的となる細胞所見の特徴を把握し正確な診断を導きださなければならない。細胞診検査は自然剥離または人為的に採取した細胞の塗抹標本を用い検査する方法で、癌腫のみならず、良性疾患、感染症などの検出においても必要不可欠な検査である。標本作製のための細胞採取法や塗抹方法、固定方法、各種染色原理を理解し、各臓器における良悪性の細胞形態的特徴を修得する。

## 【学修目標】

- 1) 臨床検査に必要な知識と技術を習得するために、細胞診断学の概要を理解する。
- 2) 細胞診検査の利点・欠点について説明できる。
- 3) 良性細胞、悪性細胞の一般的な細胞学的特徴について説明できる。
- 4) 各臓器における細胞診検体の採取法を説明できる。
- 5) 細胞診標本作製について、塗抹から染色までの処理過程を説明できる。
- 6) 各領域における正常細胞形態、炎症性病変の細胞形態について説明できる。
- 7) 各領域における腫瘍性病変ならびに境界病変の細胞形態について説明できる。

## 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細胞診断学の歴史</li> <li>・細胞の基本構造と機能</li> <li>・細胞診の基礎用語</li> <li>・予防医学の重要性</li> </ul> 教科書：P1～7	丸川活司
2	標本作製方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオハザード</li> <li>・細胞採取法</li> <li>・塗抹標本作製法</li> <li>・固定法と原理</li> <li>・染色方法と原理</li> </ul> 教科書：P8～29	丸川活司
3	細胞診標本観察方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・光学顕微鏡の操作法</li> <li>・細胞の見方（スクリーニング方法）</li> <li>・細胞診の判定、分類方法</li> <li>・細胞診における精度管理</li> </ul> 教科書：P30～36	丸川活司
4	婦人科領域の細胞診	<ul style="list-style-type: none"> <li>・婦人科細胞診における基礎</li> <li>・婦人科領域における検体採取方法</li> <li>・子宮頸部で見られる正常細胞と良性病変</li> <li>・感染症の細胞診</li> </ul> 教科書：P37～47	丸川活司
5	婦人科領域の細胞診	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子宮頸部の前癌病変</li> <li>・子宮頸部の悪性病変</li> </ul> 教科書：P48～58	丸川活司
6	婦人科領域の細胞診	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子宮体内膜の細胞診</li> <li>・卵巣腫瘍の細胞診</li> </ul> 教科書：P59～70	丸川活司
7	呼吸器領域の細胞診	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症</li> <li>・呼吸器領域の良性腫瘍と悪性腫瘍</li> </ul> 教科書：P71～86	丸川活司
8	呼吸器領域の細胞診	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肺癌の組織分類と細胞像</li> <li>・肺癌における治療法選択と細胞診</li> </ul> 教科書：P87～104	丸川活司

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
9	泌尿器領域の細胞診	・尿を中心とした泌尿器領域の細胞診 ・泌尿器領域の良性病変と悪性腫瘍 教科書：P124～144	近藤 啓
10	消化器領域の細胞診	・各種検体採取法による細胞像の変化 ・消化器領域の良性腫瘍と悪性腫瘍 教科書：P180～204	丸川活司
11	乳腺・甲状腺・唾液腺の細胞診	・乳腺の良性腫瘍と悪性腫瘍 ・甲状腺の良性腫瘍と悪性腫瘍 ・唾液腺の良性腫瘍と悪性腫瘍 教科書：P145～179	近藤 啓
12	体腔液の細胞診	・体腔液細胞診の有用性 ・体腔液に出現する良性細胞 ・体腔液に出現する悪性細胞 教科書：P105～123	丸川活司
13	骨・軟部組織・リンパ節の細胞診	・骨・軟部腫瘍と造血器腫瘍の細胞 教科書：P243～254, P222～242	近藤 啓
14	中枢神経の細胞診	・髄液中に出現する異常細胞 ・脳腫瘍の細胞 教科書：P205～231	丸川活司
15	まとめ	・国家試験に出題されやすい細胞診画像	丸川活司

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験（筆記試験）：90%

講義後課題：10%

【教科書】

細胞診のすすめ方 基礎から学ぶ 第5版 近代出版 2025年

【参考書】

JAMT技術教本シリーズ「細胞検査 技術教本」 丸善出版 2018年

細胞診を学ぶ人のために 第6版 医学書院 2019年

細胞診ガイドライン1 2015年版 婦人科・泌尿器 日本臨床細胞学会編集 金原出版 2015年

細胞診ガイドライン2 2015年版 乳腺・皮膚・骨軟部 日本臨床細胞学会編集 金原出版 2015年

細胞診ガイドライン3 2015年版 甲状腺・内分泌・神経系 日本臨床細胞学会編集 金原出版 2015年

細胞診ガイドライン4 2015年版 呼吸器・胸腺・体腔液・リンパ節 日本臨床細胞学会編集 金原出版 2015年

細胞診ガイドライン5 2015年版 消化器 日本臨床細胞学会編集 金原出版 2015年

ロピンス基礎病理学 原書10版 丸善出版 2018年

【備考】

クリッカーを使用し、学生の理解度を把握する。

Google Formを利用して学修課題を提示。

課題提出後、正解率の低かった設問を中心に解説を行い、理解の定着を図る。

【学修の準備】

授業前に講義予定の教科書範囲を予習する（80分）

講義で用いた資料に関して復習し、要点をまとめる（80分）

【ディプロマポリシーとの関連性】

（DP2）臨床検査に必要な知識と技術を習得し、先進・高度化する医療に対応できる実践能力を身につけている。

【実務経験】

丸川活司（臨床検査技師）、近藤 啓（臨床検査技師）

【実務経験を活かした教育内容】

( 2026年度・医療技術学部 )

医療機関での実務経験を活かし、高度に専門化し複雑化した医療の分野にあたり、専門職業人としての理念と方法、その具体的な実践に関して講義する。

【その他】

この科目は主要授業科目に設定している